

徳島県海陽町でアシビロヘリカメムシの発生を確認

大原賢二¹・山田量崇²・有田忠弘³

[Kenji Ôhara¹, Kazutaka Yamada² and Tadahiro Arita³: The occurrence of *Leptoglossus gonagra* (Fabricius, 1775) in Kaiyo-cho, Tokushima, Japan]

アシビロヘリカメムシ *Leptoglossus gonagra* (Fabricius, 1775) (Fig.1)は大型のヘリカメムシ科の一種で、以前は奄美大島以南に分布する南方系の種として知られていた(安永ほか, 1993; 菊原・宮本, 2012)。しかし、トカラ列島の口之島(廣森, 1999)や大隅諸島の種子島(尾形, 2013)など、奄美群島以北でもしばしば発生が確認されている。九州以北では、鹿児島県揖宿郡山川町(鹿児島県立博物館, 1994; 前田, 2015)、長崎県南高来郡小浜町(長崎県病害虫防除所, 2004)、山口県下関市(山田ほか, 2014)、和歌山県(菊原・宮本, 2012)から散発的に報告されている。しかしながら、これまでの記録を見る限り、少なくとも九州以北での記録は、一時的な発生もしくは偶産個体によるもので、本種の恒常的な発生は確認されていない。

2016年の夏季(7~8月)に鹿児島県本土で本種が大量に発生していることが確認された(鹿児島県病害虫防除所, 2016; 大原, 2016)。薩摩半島など鹿児島県西部を中心にかなり広く見つかり、露地栽培のニガウリなどが被害を受けたとして、鹿児島県病害虫防除所に

より注意が勧告された(鹿児島県病害虫防除所, 2016)。その後、9月上旬には和歌山県田辺市と東牟婁郡串本町にて(和歌山県農作物病害虫防除所, 2016)、10月には徳島県(徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所, 2016)と高知県(高知県病害虫防除所, 2016)にて、それぞれ露地のニガウリ上で本種の発生が確認された。筆者らの知る限り、こうした同時多発的な発生は過去に知られていない。

徳島県における発見経緯および発生状況

2016年の夏季、大原と山田は本種が鹿児島県や高知県などで発見されているという情報を入手したため、徳島県においても県南部では発見される可能性が高いと考え、知人や関係者に写真などを配布して情報の収集を図っていた。

2016年9月30日、有田から大原に「庭のニガウリに成虫が2頭いたが、このカメムシは問題のものではないか」との連絡が入り、送られてきた写真から本種であることを確認した。しかし、周辺では幼虫などがついているニガウリは見つからないとのことであった。本種は飛翔力が強いとされている(安田・鶴町, 1994)。これら2頭の成虫は徳島県以外から偶然飛んできたものか、そこで発生したものかを確認するため、10月3日に大原が海陽町にて調査を行った。その結果、大里の民家の畑にあるニガウリで多数の幼虫を、海陽町穴喰で成虫5頭をそれぞれ確認した(Figs. 2, 3)。また、10月8日には筆者らが旧海南町を中心に追加調査を行った。これを受けて、徳島県南部県民局の担当者に、非常に重要な害虫となる可能性のある種であることを伝え、病害虫防除所を中心とした応用面での対策を任せることとした。その後、10月20日に徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所より、平成28年度農作物病害虫発生



Fig. 1. アシビロヘリカメムシ *Leptoglossus gonagra* (Fabricius), 成虫, ♂ (海陽町吉田, 2016年10月8日)。

2016年12月1日受付, 12月28日受理。

¹ 〒770-8041 徳島市上八万町西山1023番地. 1023 Nishiyama, Kamihachiman-cho, Tokushima 770-8041, Japan.

² 徳島県立博物館, 〒770-8070 徳島市八万町文化の森総合公園. Tokushima Prefectural Museum, Bunka-no-Mori Park, Tokushima 770-8070, Japan.

³ 〒775-0203 徳島県海部郡海陽町字中小路79-1. 79-1 Nakashoji, Ozato, Kaiyo-cho, Tokushima 775-0203, Japan.



Fig. 2. ニガウリにつくアシビロヘリカメムシの若齢幼虫(海陽町大里, 2016年10月3日).



Fig. 3. ニガウリにつくアシビロヘリカメムシの成虫と幼虫(海陽町大里, 2016年10月8日).

予察特殊報第2号が出された。

確認データ

海陽町大里(33°36'32"N, 134°21'51"E): 幼虫多数観察(ニガウリ), 3 Nov. 2016, 大原賢二; 1♂3♀, 8 Oct. 2016, 山田量崇.

海陽町吉田(33°36'41"N, 134°19'12"E): 2♂1♀, 8 Oct. 2016, 山田量崇.

海陽町芝(33°36'1"N, 134°20'5"E): 3♂1♀, 8 Oct. 2016, 山田量崇.

海陽町日比原(33°34'11"N, 134°17'25"E): 成虫5個体(すべてニガウリについていたもの), 3 Oct. 2016, 大原賢二.

なお、海陽町大里での調査の後、海陽町浅川栗ノ浦にて調査を行ったところ、露地栽培のニガウリで本種を確認した。その地点より北部にはニガウリがあまり見られず、あっても本種は未確認であった。牟岐町においては、牟岐漁港に近い大戸から浜崎付近に栽培されていたニガウリを調査したものの、本種の発見に至っていない。従って、現時点では海陽町穴喰から海陽町浅川まで発生していることになる。この種が今後徳島県で越冬し、定着するかどうかは不明だが、徳島県南部は比較的温暖な地域でハウス栽培の農家が多いため、継続して調査を行うべきであろう。

飼育条件下では、ニガウリの果実や種子の柔らかいものも乾燥したものもよく吸汁した。また野生のスズメウリは非常に好んで吸った。沖縄ではオキナワズズメウリで春先に個体数が増え、その後、成長したニガウリなどに移動するようである。鹿児島県では野生のカラスウリ

での発生も報告されている(浜田・前田, 2016)。栽培植物だけでなく、野生のどのような植物を利用するのかを調べることも本種の害虫としての防除を考える上では大事なことである。徳島県でも今後定着するのか、越冬可能であるとしたら、春先にどのような植物で増えるのかなどを調査する必要がある。

末筆ではあるが、高知県での本種の発生の状況をご指示下さった高知大学農学部の荒川 良教授に感謝申し上げる。

引用文献

- 浜田孝子・前田留理子. 2016. アシビロヘリカメムシの拡散. SATSUMA, (157): 73-74.
- 廣森敏昭. 1999. 1998年10月口之島の昆虫. 鹿児島県立博物館研究報告, (18): 5-10.
- 鹿児島県病害虫防除所. 2016. 平成28年度技術除報第13号.
- 鹿児島県立博物館. 1994. 鹿児島県立博物館収蔵資料目録1994第Ⅲ集. 520p. 鹿児島.
- 菊原勇作・宮本正一. 2012. ヘリカメムシ科Family Coreidae Leach, 1815. 石川 忠・安永智秀・高井幹夫編, 日本原色カメムシ図鑑—陸生カメムシ類 Terrestrial Heteropterans—第3巻, p. 422-435. 全国農村教育協会, 東京.
- 高知県病害虫防除所. 2016. 平成28年度病害虫発生予察特殊報第3号.
- 前田留理子. 2015. 指宿市山川町のアシビロヘリカメムシとフタホシハゴロモ. SATSUMA, (155): 111.
- 長崎県病害虫防除所. 2004. 長崎県内で新たに発生した病害虫 アシビロヘリカメムシ(ニガウリ). <http://www.>

- jppn.ne.jp/nagasaki/kouhou/nagaskishinnbyougaichuu/ashibiroherikamemushi.html (2016年11月29日閲覧).
- 尾形之善. 2013. 種子島でアシビロヘリカメムシが発生. *SATSUMA*, (149) : 155.
- 大原賢二. 2016. 南さつま市でアシビロヘリカメムシを採集. *SATSUMA*, (157) : 71-72.
- 徳島県立農林水産総合技術支援センター病害虫防除所. 2016. 平成28年度農作物病害虫発生予察特殊報第2号.
- 山田量崇・山本 優・山本 直. 2014. 山口県下関市で見つかったアシビロヘリカメムシ. *Rostria*, (56) : 41-42.
- 安田耕司・鶴町昌市. 1994. アシビロヘリカメムシのウリ科野菜圃場への飛来と雄成虫フェロモンの役割. *日本応用動物昆虫学会誌*, **28** : 161-167.
- 安永智秀・高井幹夫・山下 泉・川村 満・川澤哲夫. 1993. 日本原色カメムシ図鑑—陸生カメムシ類 *Terrestrial Heteropterans*— (友国雅章監修). (10) + 380 p. 全国農村教育協会, 東京.
- 和歌山県農作物病害虫防除所. 2016. 平成28年度病害虫発生予察特殊報 (第2号).